

# 調 査 研 究



## 精神障害者スポーツ（バレーボール）大会に関する調査

鳥取県立精神保健福祉センター 原田 豊 植田俊幸 角田智玲  
池本忠典 ○臼井知子

### 1 はじめに

平成13年より、全国知的障害者スポーツ大会と全国身体障害者スポーツ大会を統合し「全国障害者スポーツ大会」が開催されることとなった。しかし精神障害者スポーツは、これに含まれず、平成14年の全国障害者スポーツ大会から精神障害者の間でも普及度の高い団体競技であるバレーボールがオープン競技として実施されようになり、平成20年度の全国障害者スポーツ大会より正式競技となった。これまで各都道府県、政令指定都市において選抜大会の開催、ブロック大会への派遣等実施されてきているが、大会の主催や大会運営の予算措置については地域の状況によってかなり異なっているのが現状であり、県・国レベルでの組織基盤の確立は他の2障害に比べ遅れていることが以前より指摘されてきている。この度の正式競技となるにあたり、身体、知的と同じく精神障害者スポーツが足並みをそろえていくことは大きな課題になると思われる。

よって各都道府県、政令指定都市の障害者スポーツ（バレーボール）大会の取組みについてのアンケート調査により、今後の精神障害者スポーツ（バレーボール）のあり方についての参考とするため現状把握を行った。

### 2 対象と方法

各都道府県、政令指定都市の精神保健福祉センター（64箇所 47県・17市）を対象にアンケート調査を実施。実施方法については各センターへEメールにて送付。

実施期間は平成19年10月15日から平成20年1月7日まで。回答数は54箇所（40県・14市）回答率は84.4%であった。

### 3 結果

(1) 全国障害者スポーツ大会への参加を始めとした障害者のスポーツ大会を担当している主管課および担当部署はどこですか。

(1-1) 知的・身体

主管課・担当部署

	回答数	パーセント
県、市障害福祉関係担当課	52	96%
未回答	2	4%
計	54	

実施主体・委託先など

県、市障害福祉関係担当課	2	4%
障害者スポーツ関係団体	42	78%
その他	3	6%
未回答	7	13%
計	54	

(1-2) 精神

主管課・担当部署

	回答数	パーセント
県、市障害福祉担当課	42	78%
障害者スポーツ団体	2	4%
その他	10	19%
計	54	

実施主体・委託先など

※複数回答あり

県、市障害福祉担当課	3	5%
障害者スポーツ団体・協議会 (精神に限定なし)	20	36%
精神障害者スポーツ関係協 議会・実行委員会	5	9%
精神保健福祉協会	8	15%
その他	12	22%
未回答	7	13%
計	55	

その他・・・精神科病院協会、精神障害者社会復帰施設連絡協議会、家族会、精神保健福祉センター未定等

(2) 全国障害者スポーツ大会・公開競技「精神障害者スポーツ(バレーボール)大会代表選考のために行われている各地区ブロックの「精神障害者バレーボール大会」に代表チームを派遣していますか。

	回答数	パーセント
派遣している	38	71%
派遣していない	14	26%
その他	2	4%
計	54	

その他、備考・・・過去地元でブロック大会を開催した時のみ派遣した。過去参加希望チームがあった時派遣した。

(3) 県・市大会について(※派遣していると回答された方のみ 38箇所)

(3-1) 代表チームはどの様に決定していますか。

	回答数	パーセント
県・市大会を開催して決定している。	33	87%
その他	5	13%
計	38	

その他、備考・・・スポーツ交流祭の競技部門での上位チームと一般公募チームで予選会。交流会的なスポーツ大会の中で予選会を実施。県大会優勝チームを中心にチーム選抜等

(3-2) 県・市大会を主催している機関はどこですか。

	回答数	パーセント
県、市担当課	6	16%
障害者スポーツ団体、協議 会(精神に限定なし)	14	37%
精神障害者スポーツ関係協 議会・実行委員会	5	13%
精神保健福祉協会	6	16%
その他	5	13%
未回答	2	5%
計	38	

その他・・・精神科病院協会、家族会、精神障害者社会復帰施設協会等

(3-3) 県・市大会に関して、精神保健福祉センターはどの様に関わっていますか。

	回答数	パーセント
大会を主催	12	32%
側面的支援	19	50%
関わりなし	5	13%
未回答	2	5%
計	38	

(3-4) 県・市大会に関して、何らかの予算措置がとられていますか。あれば、具体的に記載下さい。

	回答数	パーセント
予算措置あり	25	66%
予算措置なし	6	16%
その他	5	13%
未回答	2	5%
計	38	

予算措置・・・主管課から大会運営費の交付

その他・・・病院協会、作業療法士会からの助成。精神保健福祉協会から支出。障害者スポーツセンター予算で対応。参加費を徴収。検討中等

(3-5) 県・市大会に関して、協力をしている関係団体、委託をしている関係団体がありますか。あれば具体的に記載下さい。

	回答数	パーセント
あり	32	84%
なし	2	5%
未回答	4	11%
計	38	

委託・・・障害者スポーツ協会、バレーボール実行委員会、家族会

協力・・・精神保健福祉協会、バレーボール協会、障害者スポーツ協会、精神科病院協会等医療機関関係団体、日本精神保健福祉連盟、家族会、

(3-6) 県・市大会に関して、何らかのボランティア(精神保健ボランティアなど)の協力を得ていますか。

	回答数	パーセント
協力あり	33	87%
協力なし	3	8%
未回答	2	5%
計	38	

協力・・・バレーボール協会、学生、ボランティアグループ、医療関係団体、障害者スポーツ協会、地域生活支援センター等

(3-7) 県・市大会に関して、出場チームの募集の広報、周知は、どの機関が、どこまでを対象に行っていますが。

	回答数	パーセント
主催機関が周知	26	69%
その他の機関が周知	8	21%
その他	2	5%
未回答	2	5%
計	38	

対象・・・家族会、支援センター、作業所、施設、病院、保健所、市町村、当事者グループ、特別支援学校、地域生活支援センター

その他の広報・・・広報誌、ホームページに掲載

(3-8) 県・市大会に関して、事前にマスコミへの広報を行っていますか。当日の、マスコミの取材に対してどのような対応をとっていますか。参加者に対して、マスコミ対応の何らかの説明はしておられますか。

	回答数	パーセント
対応あり	15	39%
なし	18	48%
その他	2	5%
未回答	3	8%
計	38	

具体的対応として・・・マスコミへは、個人が特定されない撮影をお願いし参加者へは事前に周知

(3-9) 県・市大会に関して、課題となること、お気づきの点などありましたら記載下さい。

- 三障害合同障害者スポーツ大会を実施しているものの、予算面、事務分担面について未だ整理されていない。
- センターが事務局を担っているが、今後他機関(障害者スポーツ団体等)への事務局移管が課題。
- 会場、ボランティアの確保が困難
- 運営スタッフ、運営費の確保が困難
- 当事者のエンパワーを図る目的で協力しているが、スポーツ団体にはその趣旨が理解されにくい。
- 全国大会への対応について(種目増加、手帳保持の義務化)
- 交流会からの選抜チーム、一般公募によるチームで出場権を争うため両者のバランスをとるのが難しい
- 地区大会の実施のあり方。(裾野の拡大、数箇所ある地区での開催方法)
- 競技団体が無いため毎年度委託先を探さなければならない
- 参加チームの減少
- 作業所規模などでは予算の確保が難しいためチームの結成が困難
- 主催者(精神障害者社会復帰施設協会)が事務局を担っているが、今後の存続が不透明である。
- 参加チームが増加すれば、市単位での開催が課題となる

等

(4-1) 県・市大会に向けて県(市)内の地区大会を開催していますか。

	回答数	パーセント
県(市)地区大会を開催している。	11	20%
県(市)地区大会は開催していない。	38	70%
その他	3	6%
未回答	2	4%
計	54	

その他備考・・・地域生活支援センター主催による自主的な会がある。等

(4-2) 県(市)地区大会を主催している機関はどこですか。

	回答数	パーセント
県、市担当課	3	6%
障害者スポーツ団体、協議会(精神に限定なし)	3	6%
精神障害者スポーツ関係協議会・実行委員会	3	6%
精神保健福祉協会	2	4%
その他	1	2%
未回答	42	76%
計	54	

その他・・・家族会

(4-3) 県(市)地区大会に関して、精神保健福祉センターはどの様に関わっていますか。

	回答数	パーセント
大会を主催	2	4%
側面的支援	7	13%
関わりなし	3	6%
その他	1	2%
未回答	41	75%
計	54	

(4-4) 県(市)地区大会に関して、何らかの予算措置がとられていますか。あれば、具体的に記載下さい。

	回答数	パーセント
予算措置あり	8	15%
予算措置なし	3	6%
未回答	43	79%
計	54	

予算措置・・・県、市からの運営費の交付

(4-5) 県(市)地区大会に関して、何らかのボランティア(精神保健ボランティアなど)の協力を得ていますか。

	回答数	パーセント
協力あり	10	19%
協力なし	1	2%
その他	1	2%
未回答	42	77%
計	54	

(4-6) 県(市)地区大会に関して、課題となること、お気づきの点などありましたら記載下さい。

- 運営スタッフ、予算の確保
- チームの二極化(競技性重視と交流目的)
- 参加チームの減少
- 同一チームの優勝が続いている。何年以上は出られない等の規制を作ってもよいのではないか

(5) 各地区ブロック大会への派遣について(※派遣していると回答された方のみ 38箇所)

(5-1) ブロック大会への派遣に関して、精神保健福祉センターはどの様に関わっていますか。

	回答数	パーセント
係わりあり	17	45%
係わりなし	19	50%
未回答	2	5%
計	38	

係わりの具体的内容・・・救護職員への派遣、情報提供、派遣旅費の事務手続き、主管課との連絡調整、当日の引率、大会の線審等

(5-2) ブロック大会への派遣に関して、何らかの予算措置がとられていますか。あれば、具体的に記載下さい。

	回答数	パーセント
予算措置あり	19	50%
予算措置なし	14	36%
その他	4	11%
未回答	1	3%
計	38	

予算措置・・・主管課から派遣についての旅費、宿泊費等の補助金  
その他・・・精神保健福祉協会、スポーツ団体等からの助成。参加費の徴収。

(5-3)ブロック大会への派遣に関して、何らかのボランティア(精神保健ボランティアなど)の協力を得ていますか。

	回答数	パーセント
協力あり	4	11%
協力なし	31	81%
未回答	3	8%
計	38	

(5-4)ブロック大会への派遣に関して、課題となること、お気づきの点などありましたら記載下さい。

- 大会の開催計画の決定や通知が時期的に遅い
- 代表チームの選抜方法、派遣・強化費用の補助
- 正式種目化する際に全国である程度同じレベルの予算措置をとるべきかと考えます。また、県大会のルールが若干異なる(職員の選手参加、得点等)ため、調整が必要。
- ブロック大会への派遣費用が無い
- 平成19年度から大会エリアが広がり一挙に関東ブロック大会になったので運営が心配であり、今後の打ち合わせが重要となる。
- 全国大会のレベルが高くなっており、今後チーム単位の派遣から選抜チームの派遣へと変えていく必要がある。
- 財政難等により、選手を派遣できない都道府県もある等、各都道府県によって財政面で格差があるようだ。派遣できないような都道府県もある状態であっても、ブロック大会は継続して行うべきなのであるか。
- 徐々に、所属する施設ごとのチーム以外に、自主的に作った地域チームが活動しており、チーム支援に市町村等地域関係者を入れていく必要も感じている。

(6)全国大会への派遣について(※全国大会への出場が決定した場合)

(6-1)全国大会への派遣に関して、精神保健福祉センターはどの様に関わっていますか。

	回答数	パーセント
係わりあり	7	13%
係わりなし	32	59%
その他	1	2%
未回答	14	26%
計	54	

係わりの具体的内容…開催通知、参加費助成手続き等

(6-2)全国大会への派遣に関して、何らかの予算措置がとられますか。あれば、具体的に記載下さい。

	回答数	パーセント
予算措置あり	26	48%
予算措置なし	12	22%
その他	1	2%
未回答	15	28%
計	54	

予算措置…交通費、宿泊費などを補正予算で計上する。県障害福祉課と市障がい福祉課で選手団派遣費用を負担。

(6-3)全国大会への派遣に関して、課題となること、お気づきの点などありましたら記載下さい。

- 選手が集中している特定施設に負担がかかっている。
- 正式種目化する際に全国である程度同じレベルの予算措置をとるべきかと考えます。
- 大会参加にあたって、開催期間(6日間)に耐えられるのか。
- 本県の全国大会における選手団は、身体障害部門は県身体障害者福祉協会に、知的障害部門は県手をつなぐ育成会にと、各障害の特性を理解し、十分なサポートのできる団体に、選手団の編成・強化練習・移動宿泊の手配等を委託することで構成されている。精神障害部門についても然るべき団体に委託する等、選手団の派遣について検討を要する。
- 選手の自己負担の導入の検討

(7)精神障害者スポーツ(バレーボール)大会に関して、ご意見などありましたらお聞かせ下さい。

- 平成20年度以降、全国大会も三障害合同大会となるが、身障・知障とは別に精神障害者スポーツのみ運営等が各都道府県の精神保健福祉センターや精神保健福祉協議会に由来どおり丸投げになるようなことのないように、各都道府県本庁の障害者スポーツ担当等の方で整理して欲しい。
- 6人制バレールール準拠の種目だけでは、競技性が強く、参加者が限られてしまうので、もう少し、リクレーシヨンの要素を盛り込んだ種目を設けていただきたい
- 病状、年齢等、様々な精神障害関連施設の参加がある中で、どこまで競技性を重視していくのか。
- バレーボールを通じての社会参加を励みにしている方たちが多くのでこれから継続されたい。
- 指導者養成講習会開催の実情を知りたい
- 全国大会・ブロック大会の競技規則等の決定はどこで決めるのか。ブロック大会開催経費の確保
- 当事者の方の関心も高く、効果がある事業と思われます。身体・知的と同じ枠組みでの実施のため全国的な体制づくりを、ぜひお願いしたいと思います。
- 女性の参加者が少ない
- 県大会 → 中四国ブロック大会 → 全国大会 の順に開催を要望する意見が多い。
- メディアでももっと周知してほしい。
- 各都道府県で運営主体がバラバラ。統一できればとの意見がある。

(8-1)本大会の他に、県・市レベルのスポーツ大会を開催していますか。あれば、具体的に記載下さい。

	回答数	パーセント
開催あり	28	52%
開催なし	17	31%
未回答	9	17%
計	54	

障害者スポーツ大会、体育大会、リクレーシヨン大会、(フライングディスク、水泳、卓球、グランドゴルフ、ゲートボール、ソフトボール等)

(8-2) 上記大会の主催をしている機関について記載下さい。

	回答数	パーセント
県、市担当課	4	7%
障害者スポーツ団体、協議会(精神に限定なし)	7	13%
精神障害者スポーツ関係協議会・実行委員会	3	6%
精神保健福祉協会	3	6%
その他	12	20%
未回答	25	47%
計	54	

その他・・・当事者会、家族会、障害者協会、精神科病院・施設・作業所の団体、精神保健福祉センター等

(8-3) 上記大会に関して、精神保健福祉センターはどの様に係わっていますか。

	回答数	パーセント
係わりあり	15	28%
係わりなし	15	28%
未回答	24	44%
計	54	

具体的係わり・・・実行委員会、大開催業務の補助、事務局として主催

(9) 精神障害者のスポーツ大会・スポーツ振興に関して、ご意見などありましたらお聞かせ下さい。

- スポーツ振興団体の障害者枠の拡大という方向を目指すべき
- 精神障害についても、他の2障害同様、バレーボール以外にも参加種目を増やして欲しいといった要望もあるようだ。
- 全国大会で当事者参加型運営を実施して欲しい。
- バレーボールの競技レベルが高くなっていることから、施設チームからクラブチームや選抜チームを組織していかないと全国大会で勝つことは困難となりつつある。
- 安定した大会運営をしていくために、ルールや実施方法などの指針が明確にあるとよい。
- 精神障害者のスポーツというものが、あまり浸透していない。理解と協力が必要。病院・施設等でスポーツの取り組みが積極的におこなわれるといいと思う。
- 身体・知的障害者だけでなく、精神障害者もメディアに取り上げてほしい。
- チームスポーツにはリハビリ効果があると思われるが、チームが作れないと実施できない。スポーツ振興という側面から考えると個人競技の開催もよいのでは。
- 本市では、身体障害、知的障害の方の名古屋市障害者スポーツ大会が開催されており、その大会への精神障害の統合が課題となっています。そういう課題も踏まえ、現在実施している卓球大会やバレーボール大会の本市単位のもの本市障害者スポーツ大会への統合等、精神障害者スポーツ施策を障害者スポーツ施策の中へどのようなプロセスで位置づけていか、19年度は、主管課、障害者スポーツセンター、精神保健福祉センターの各担当者レベルでの会議を開催中です。

(10-1) これまでに、ブロック大会を貴自治体が開催したことがありますか。

	回答数	パーセント
ブロック大会を開催したことがある。	24	44%
ブロック大会を開催したことはない。	30	56%
計	54	

(10-2) ブロック大会を主催した機関はどこですか。(ブロック大会を開催したことがある・・・24箇所)

	回答数	パーセント
県、市担当課	1	4%
障害者スポーツ団体、協議会(精神に限定なし)	5	21%
精神障害者スポーツ関係協議会・実行委員会	5	21%
精神保健福祉協会	6	25%
その他	7	29%
計	24	

(10-3) ブロック大会開催に関して、精神保健福祉センターはどの様に係わりましたか。

	回答数	パーセント
係わりあり	22	92%
係わりなし	2	8%
計	24	

具体的係わり・・・実行委員会、大開催業務の補助、事務局として主催

(10-4) ブロック大会開催に関して、自治体として何らかの予算措置がとられていますか。あれば、具体的に記載下さい。

	回答数	パーセント
予算措置あり	7	29%
予算措置なし	14	58%
その他	3	13%
計	24	

予算措置・・・主管課からの委託金

その他・・・日本精神保健福祉連盟からのブロック大会開催の委託料と、障害者スポーツ協会の既存予算にて対応、詳細不明

(10-5)ブロック大会開催に関して、何らかのボランティア(精神保健ボランティアなど)の協力を得ましたか。

	回答数	パーセント
協力あり	19	79%
協力なし	4	17%
未回答	1	4%
計	24	

(10-6)ブロック大会開催は、どのような形で依頼されましたか。

- 日本精神福祉連盟からの依頼
- 持ち回り
- ブロック内でのセンター会議

(10-7)ブロック大会開催に関して、課題となること、お気づきの点などありましたら記載下さい。

- 今後もブロック大会を開催できるのか。(それだけのマンパワー、予算があるのか。)開催するとすれば、どのように開催都道府県を決めるのか。今後も開催を持ち回りで行う際に、財政難等により持ち回りを拒否する都道府県が生じた場合でも継続させるのか。また、平成20年度より三障害合同となるが、他の2障害の競技と合同開催することは可能なのか。
- 身体障害、知的障害部門と同様に、ブロック大会の開催について、大会の時期やブロック内の道県市持ち回りで大会を開催する等のルールを決めることが必要と思われる。
- これまではセンター所長会で協議して開催地等を調整してきたが、今後こうした役割をどの機関が担うことになるのか。
- 予算額が少ない中で実施するのは大変であった。施設使用料等で減免の協力等いただかないと実施は非常に厳しい額である。平日の実施であったため、ボランティアの協力が得にくかった。
- 障害者スポーツ協会を三障害対応の団体に拡充できるか又は別の受託団体を確保するかしないとブロック大会の開催は不可能である
- これまで全国大会の前年度に関東ブロック大会を開催しているが、全国大会と同年度に開催すべき。
- 今後、エリアが拡大されることから、ブロック大会の開催についてどのような開催が良いのか
- 県大会開催に比べて非常に事務量の負担が増える。等

(11)その他、全体的に、ご意見などありましたらお聞かせ下さい。

○北海道・東北ブロックについては、平成20年度大分県で行われる全国大会前のブロック大会開催について、どのように行うのか、今のところこの都道府県もわからず情報がない状態。平成20年度の予算編成もあるため、どの都道府県も困っているような状態である。また、スポーツ大会開催にあたっては、競技団体(バレーボール協会等)の協力も必要となるが、競技団体も各試合を抱え多忙な身であり、協力するとすると日程調整等が困難なようで、県大会の開催だけでも精一杯のようである。当県は財政難もあり人減らしも進んでおり、仮にブロック大会や全国大会開催県となってしまうとマンパワー及び予算面において大変厳しいものがあると思う。また、平成20年度の大分県全国大会から「ふうせんバレーボール」、「卓球バレー」が三障害の者が参加できるオープン競技として新たに加わるがこちらについても、県大会、ブロック大会等どのように行っていくのか、全く不明である。今後のスポーツ大会の運営等については、各都道府県本庁の方で協議し、早急に方針を固めていって欲しいと思うが、本庁の方にも、他の2障害と違い精神障害スポーツに関する情報はほとんどなく、どのように動いていったらわからないようで、これもまた問題だと思う。今まではどこが取り決めたのか等が曖昧な部分もあったことにより、現在、各機関も困惑している状況なので、平成20年度以降正式に三障害合同となることをきっかけとして、明確化していけば良いと思っている。

- これまで、精神保健福祉連盟が県大会やブロック大会の開催経費を助成してきた。こうした助成金がなくなれば大会の開催自体が困難になる。
- 本県では、独自ルールのソフトバレーが定着しており、6人制バレーに取り組むチームが殆どない状況であり、今後、普及させることができるかどうか未知数である
- 関東ブロック大会は広域過ぎる感がある。都だけでも1200万人の人口であり、他ブロックと比べて不公平感がある。
- 精神障害者スポーツを他の障害者スポーツといかに統合していくかが問題
- 競技ルールに一貫性がない(得点、試合用ボールなどまちまち) 等

次の設問は、各ブロックの常任理事の方にお願います。

(5ブロック回答)

(12-1)ブロック間において、主催地の決定など各自治体間での連絡会の様なものがありますか。

- 知的・身障は、本庁の主査クラスの連絡体制あり。精神はブロックのセンター協議会で協議していた。
- 特になし
- ブロック精神保健福祉センター所長会議並びに研究協議会

(12-2)ブロック大会の開催地は、どの様にして決定していますか。

- 上記大会に於いて、持ち回り順を決めている。
- ブロック内での協議はなく、日本精神保健福祉連盟から個別に依頼があり決定となる。
- 精神は昨年まで、ブロックセンター協議会で決めていた。

(12-3)ブロック大会の開催地の決定など、今後の課題となること、お気づきの点など記載下さい。

- 三障害同一の連絡協議体制で決定をしていくことになるが、とりえず、今回の予選(ブロック大会)の扱いが未定なのでこれが課題。
- 開催場所の決定ルールの策定 ・開催経費の負担ルールの策定
- 今後の開催地をどうするかを協議する場が必要。